

隷徒 4

あんぷらぐど
荒縄工房

栄子の章+黒穴女学園編



イラスト
月工仮面

荒縄
SM
文庫

荒縄SM文庫

隷徒 4



栄子の章十

黒穴女子学園編

あんぷらぐど著

荒縄工房・発行

本作品はすべてフィクションであり、実在する人物・地名・団体とは一切関係ありません。また、特定の個人、団体、宗教、人種、性別などを誹謗中傷する意図はありません。

あんぷらぐど

S M雑誌に「仲ゆうじ」名でS M小説を執筆して作家活動をスタート。その後、作家活動は休止し、編集の仕事に携わる。ネットでは「ふにやふにや」「あんぷらぐど」名でS M小説を執筆。独自の自虐的S M、一人称による告白形式の作品、伝奇S M小説などを発表し続けている。東京在住。

目次

イラスト 8

これまでのあらすじ 9

主な登場人物（栄子の章） 12

栄子の章 13

イラスト 14

逃走 15

受難 26

奉仕 48

実験の果て 58

スカトロ 81

業務用 97

試験 119

貸し出し 127

黒穴女子学園編 145

イラスト 146

主な登場人物（黒穴女子学園編） 147

清らかな学園 148

第三木曜日 164

金曜日 205

長い土曜日 237

快感 253

矯正 269

開発 285

選別	307
アクメ地獄	330
チーム	354
レッドの悲劇	379
土曜日の終わり	403
安息の日曜日	426
イラスト	454
ブログ版エンディング	455
夢想	463
イラスト	467

表紙・文中のイラスト提供

月工仮面 「極彩色の雨」

<http://gekkoumask.blog14.fc2.com/>

イラスト



これまでのあらすじ

隸徒 1 聖香の章

聖香は転校して最初の日、ノーパンにお尻に淫らな字まで書いて登校しました。淫らな妄想と衝動を抑えられない彼女を、荒縄学園のエリート学生による風紀の取り締まりグループ・チームAたちは見逃しませんでした。学園を去るか、隸徒になるか。二者択一を迫られた聖香は、母の期待を裏切らないためにも卒業だけはやさせてくれる約束で隸徒の道を選びます。ですが、それはとんでもなく過酷な選択でした。

隷徒2 姉妹の章

今度は姉の翔子も巻き込まれてしまいました。しかも、翔子ちゃんは日々、風俗で男性のものをお口と手でシッコ抜く仕事を密かにしていただけあって、テクニクも抜群。たちまち学園の人気者に。

一方、開発途上の聖香は、娯楽用隷徒としては翔子に劣るとされて、実験用隷徒にされてしまいました。

おまけに、帰宅途中、がまんできずに公園のトイレを利用したところ、ホームレスの男たちに襲われてしまい、朝までもてあそばされてしまうのでした。

隷徒3 母娘の章

聖香、その姉の翔子が公園に住む者たちに乱暴されて帰宅しなかったのを心配し、学園にやってきた母。だが彼女もまた過去を偽っていたのでした。

とうとう一家は町ぐるみの奴隷に墮とされていくのです。家はホームレスたちの憩いの場に……。

とくに母に対しては、誰もが容赦のない乱暴を働くのです。人間扱いされなくなった母と姉妹。

そこに強烈なサディストである新任教師、栄子がやってきます。彼女の狙いはなんでしょうか？

主な登場人物（栄子の章）

花沼聖香 変態妄想癖の学生。

翔子 聖香の姉。専門学校学生。

佐恵子 聖香、翔子の母。シングルマザー

奥沢社長 奥沢工業の社長。荒縄学園の

OB。学園の後援者。町の有力者。

秋沢栄子 新任教師

克也、圭俊、一毅、健介、千晶

チームAのメンバー。チームAは代々、先輩から推薦されて選抜される成績最優秀な学生たち。学園の秩序・環境維持のための活動をする。隸徒の管理も担当している。

栄子の章

イラスト



逃走

「もう一発！」

「ぎゃひん！」

お尻が焼けるようです。栄子先生、きつすぎます。

これだけやれば、まさか私たちを逃がそうとしてい
るとは気づかれないでしょう。

淫らなショーも、母と姉が白目を剥いて、絶頂を迎
えたときに一区切りです。

「みなさんの前で排泄するわけにはいかないわね」

栄子先生の鞭に追われるようにして、私たちはいつ
たん、舞台の袖に。

「三人でちゃんと始末してきてよ」

先生の指示に従い、私を母と姉がトイレに連れていきます。

そこには教員たちが大勢いましたが、これから排泄する私を笑って見ているばかりです。

見慣れた私の排泄姿など見たいはずもなく、誰もトイレまでとはついてきませんでした。

そこに栄子先生が駆けつけてきました。

「早く。窓から外に出るの」

「お腹が……」

「時間ないわ。ガマンして」

トイレの小さな窓。私を踏み台にして姉が外へ出ま

した。続いて母も。

そして窓のところまで母が手を伸ばし、私を引っ張ってくれます。先生が足を持って、放り投げてくれました。

ガチャガチャとチェーンがうるさいのですが、そんなことに構ってられません。

体育館の裏に出た私たちは、小さなフェンスを乗り越えて、隣の家の中庭に入りました。計画ではその裏口を抜けたところで、栄子先生が車で待っているのです。車に乗って私たちは隣町まで逃げ、そこで警察に保護される予定です。

庭を静かに抜けるため、鎖を持って、私たちは静か

に歩き、裏口を見つけて外に出ました。路地がありません。

白い乗用車が止まっていて、栄子先生が運転席にいました。

私たちは急いで車に乗り込みました。

「じゃ、行くわよ。車の中で、それを着てね」

枷と鎖はすぐには外せませんが、チュニツクのような服を私たちは頭からかぶりました。

この先は行き止まりらしく、先生は慎重にバックして路地から出ます。

突然、ガクンと車が止まりました。

「あつ」と先生が声をあげます。

見ると、路地は大きなトラックに塞がれているので、横に「奥沢工業」と書いてありました。

奥沢社長、千晶、チームAの全員が現れました。

「どういうこと！」

栄子先生も私もパニックです。

母は泣いています。姉も泣いています。その様子が変わるので、ピンと来たのです。

「おかあさん、おねえちゃん、まさか！」

「ごめんね、聖香。こうするしかないのよ」

母が泣きながら謝っています。

社長たちが車を囲みます。

「先生。おりてください」

「だめ！　だめよ」

車は内側からロックされています。だから、簡単には彼らも手を出せません。

「おとなしく降りてください。お願いしますよ。そうしてくれないと、面倒なことになりますよ」

「通してください。あのトラックをどけて！」

「そうはいかないんですよ」

「あなたたちの悪事をすべて暴いてやりますからね！」

そのとき、千晶が私に笑いながら手を振っているのに気づきました。

チームA。そうなんです。私が密かに匿名でブログ

に恥ずかしい写真を掲載していたことさえも、簡単に突き止めていたのです。ということは……。

栄子先生のこと、すっかり調べられていたのでは？

「強情をはると、実力行使をすることになりますし、栄子先生の罪も重くなります」とチームAの圭俊が言いました。

「私の罪？ そんなものあるわけないじゃないの！ 悪いのはあなたたちでしょう」

「聞こえませんか。困ったな。出て来てくださいよ」奥沢社長はなにを考えているのか、ニヤニヤしています。

先生は真つ青な顔をして、ブルブル震えています。私たちを思い切り殴ったり、蹴ったり、鞭で叩いていた強気の姿は、そこにはありません。

携帯電話を取り出し、どこかに連絡をしようとしています。

次の瞬間。母がうしろから鎖で先生の首を引っ掛けました。姉が飛び込むようにして、先生の携帯を奪います。

「なにしてるの！」

私は叫んでいました。

私たちを自由にしてくれる先生を、なんで……。

「こうするしかないのよ！」

母がまた叫びました。

チームAはすでに先生の素姓を知っていて、観察していたのでしよう。なにをいつするのか。それを母と姉は奥沢社長に報告していたのです。

大ショックです。

トラックの荷台が開き、ヘルメットに作業着姿の男たちが降りてきました。

「勝ち目はないんですよ、先生」

「苦しい、やめて。逃げるのよ」となんとか母と姉を説得しようとしているようですが、ムリなのです。

私は呆然としていました。

作業着の男たちが、一発でフロントガラスを割りま

した。

「きゃー」と先生が叫びます。

巨大な電動カッターでボンネットを引き裂いて、なにかをいじると、エンジンが停止しました。

さらに屋根を支える柱を切断して、「せーの」と男たちは屋根を引き剥がしていくのです。

お腹が苦しいので、脂汗を垂らしている私は、声もでません。

「よくやったね、佐恵子、翔子」

奥沢社長は二人の頬をバシバシと平手で叩きます。

愛撫などではないのです。ビンタをしているのですが、それなのに、母も姉もうれしそうに笑っています。い

いことをしたと思っっているのです。社長に誉められて喜んでいるのです。

それは、もう、母でも姉でもなく、服従することだけを叩き込まれた社長の奴隷でしかないのです。

脱出が夢と消えたことよりも、その事実のほうか、私には衝撃でした。

受難

街中だというのに、警察も来ません。

チームAの男子四人は先が鋭く尖った棒を持っています。

「順番に降りるんだ」

その銀色の先端を母に向けました。母は歪んだドアを作業員が破ると、転がるように外に出ました。首輪の鎖を作業員のひとりがかむと、トラックへ引っ張っていきます。

「あっ、ひっ、許して。私はなにもししていません。信じてください」

首を絞められて苦しそうです。

「おまえ」

姉の翔子も、あとに続きます。作業員に黙って連れられていきます。

「聖香。来なさい」と千晶。彼女は棒を持っていません。

「黙ってきなさい」

「でも……」

ちよつとためらったただけなのに、棒の鋭い先端が上から被っていた布を突き破って右のオツパイに突き刺さりました。

「ぎやっ」

「叫ぶのはこれからだよ」とチームAの健介が棒の手にあるボタンに指をかけています。長髪で少し子どもっぽい彼ですが、すごく無邪気に残酷なのです。

「ふふふ」と笑ってボタンを押しました。

「がぎい！」

悲鳴が途中で止まるほど、強烈なショック。電気です。

体が動きません。すべての筋肉が硬直して、すさまじい不快な痛みが神経に伝わっていきます。

「何秒、耐えられるかな？」

「ぎい　　い　　い　　い　　い」

それは瞬間的にショックを与えるだけではなく、長

時間、電流を流すのです。穴がすべて開いてしまい、おしつこを漏らし、涎を流し、うんこもちよっぴり……。

このまま死ぬんだと思ったときに、やっと電流が止まりました。

「はあああああ」

声が出ました。だけど痺れて動けません。

千晶が鎖を引っ張って、無理やり降ろされました。

地面にばったりと倒れてしまいます。

ずるずると鎖を引っ張られるので首が折れそうになります。手で鎖を握ると、そのまま引っ張られます。

「待て。もう少し動けるようになってからでいい」と

奥沢社長が止めてくれました。

車には真つ青は栄子先生だけです。

「おりてください。ご覧になったでしょう。あんなふう
うにみつともなくおろされたいですか？」

先生は悔しそうです。助けだそうとして、母と姉に
裏切られたのですから、当然でしょう。

うつむいて、車からおとなしく出てきました。作業
員とチームAが囲みます。次の瞬間、先生はくるりと
体を反転させ、手近な作業員を殴り倒し、壊れた車に
飛び移り、反対側へ走りました。いつきにチームAの
手の届かない距離へ。

ですが、どうすれば逃げ切れるでしょう。

奥付

お読みいただき

ありがとうございます。

二〇一九年一月刊行

著作権 あんぷらぐど (荒縄工房)

荒縄工房の情報は下記サイトへ

●ブログ「荒縄工房」

●ホームページ

●荒縄工房 SM研究室

●今日も上機嫌ってわけないだろ

コメント、メッセージ歓迎。ご意見、ご感想、ご提案など随時、ブログで受付中。